

会 議 録

会議名	令和3年度第3回丸亀市総合教育会議
開催日時	令和3年11月15日(月) 13:30~14:50
開催場所	丸亀市役所3階303・304会議室
出席者	<p>出席委員 松永恭二(市長)、金丸眞明(教育長)、徳永秀文、土方実加、松岡舟、福田康知 (以上敬称略)</p> <p>事務局 市長公室長 山地幸夫 (市長公室秘書政策課) 課長 窪田徹也、副課長 谷本智子、大川智</p> <p>市出席者 教育部長 七座武史 (教育部総務課) 課長 吉野隆志、副課長 高倉鋭悟 (教育部学校教育課) 課長 菅佳久、副課長 横山友亮 (教育部幼保運営課) 課長 黒田千絵 (市民生活部生涯学習課) 課長 田中壽紀、副課長 高木和弘</p>
議 題	<p>(1) 丸亀市教育大綱の解説書(案)について</p> <p>(2) まち全体で子どもを育てる環境づくりへの取組について</p>
傍聴者	0人
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	ただ今から令和3年度第3回丸亀市総合教育会議を開会します。はじめに、松永市長よりごあいさつをお願いします。
松永市長	丸亀市では、国際的な開発目標であるSDGsの推進や、令和3年3月に宣言した「ゼロカーボンシティ」に基づく取組を進めています。これらの推進には、子どもたちの教育が大切と考えておりますので、ご協力をお願いします。
窪田課長	<p>本日の協議事項は「(1) 丸亀市教育大綱の解説書(案)について」と「(2) まち全体で子どもを育てる環境づくりへの取組について」の2件です。</p> <p>なお、本日の会議は議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、恐れ入りますが、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようお願いいたします。</p> <p>それでは会議の進行につきましては、松永市長よりお願いします。</p>
松永市長	議題(1)「丸亀市教育大綱の解説書(案)について」事務局より説明をお願いします。
大川	<資料に基づいて説明>

福田委員	資料①の施策の方向性1と9に共通した意見です。それぞれ「協働的な学び」と「個別最適な学び」の「実現」と表現していますが、これから取り組んでいくことのように感じられました。これらはすでに取り組んでいることですので、「実現」を「充実」に改めることとし、施策の方向性1は「協働的な学びを充実し」、施策の方向性9は「個別最適な学びの充実を図る」に修正してはいかがでしょうか。
窪田課長	他の教育委員のご意見をお伺いしたいと思います。
金丸教育長	福田委員のご意見のとおり修正すべきだと思います。
徳永委員	施策の方向性9については、「充実」で良いと思いますが、施策の方向性1については、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールなどの新たなステージへの過渡期であることを踏まえ、「実現」でも良いと思いました。
土方委員	徳永委員と同意見です。
松岡委員	取組の進捗状況によるとと思いますが、「充実」の方がしっくりきます。
松永市長	意見が分かれましたが、私としては、施策の方向性1、9ともに「充実」で良いと思います。施策の方向性1は「実現」というご意見もありましたが、新しい言葉である地域学校協働活動に近い取組は、すでに地域で実施されていることから「充実」にしたいと思います。よろしいでしょうか。
教育委員	<了承>
金丸教育長	資料③の施策の方向性12で、「軽減したり、学習機会を提供するなど」とありますが、「軽減したり、学習機会を提供したりするなど」に修正してはいかがでしょうか。
窪田課長	そのように修正します。
松永市長	次に議題（2）「まち全体で子どもを育てる環境づくりへの取組について」は、私の市長公約である「まち全体が学校」の取組の現状や令和4年度の予定、そして、この取組を市民の皆さんにお知らせしていく方法について、意見交換をしたいと思います議題に挙げさせていただきます。それでは事務局より説明をお願いします。
田中課長	<資料に基づいて説明>
菅課長	<資料に基づいて説明>
黒田課長	<資料に基づいて説明>

松永市長	<p>地域学校協働活動を積極的に推進していく上で、不審者扱いされてしまうなど一定のハードルはありますが、私としては、自分の子どもの頃のように地域の方が褒めるところは褒め、注意するところは注意するといった声かけなどを通して、地域が子どもをしっかりと見守り、育てていく環境をつくりたいと考えています。</p>
徳永委員	<p>私が中学校の校長を務めていた時は、学校だけで問題を解決できないケースもありましたが、地域が学校との協働活動を立ち上げ、声かけなどに取り組んでいただいたおかげで段々と学校が落ち着いてきました。ご協力いただいた地域の方には、大変感謝しています。</p> <p>一方で、地域としては、学校のためにやってあげているという感覚があったのか、地域の活動をもっと受け入れて欲しいという気持ちが強かったと記憶していますが、学校としては、様々な学校行事をこなさなければならない事情もあったことから、簡単に受け入れられなかった現実もあります。</p> <p>これらの経緯を踏まえ、今後は、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの両輪により、地域の子どものより良い成長に向けて、学校・家庭・地域がしっかりと話し合い、その方向性を明確にしていけば良いと考えています。</p> <p>私としては、市の取組に大変期待するとともに、教育委員という立場上様々な制限はありますが、地域のために協力していきたいと考えています。</p>
金丸教育長	<p>令和2年度のコミュニティ・スクール検討委員会において、コミュニティの会長から、「コミュニティ・スクールは、学校の応援団であり、学校をサポートをする仕組みを作ること」とのご意見いただいたことが印象に残っています。このことから、地域も学校に新しいことを求め負担を増やすのではなく、学校運営が円滑にいくよう学校の負担を軽減する取組を検討していかなければならないと認識していると考えています。</p> <p>また、地域コーディネーター養成講座のはじめに、学校が求めていることに取り組むことがコーディネーターの役割であることを明確にさせていただいているので、非常にありがたいと思っています。地域コーディネーターには、学校のニーズをしっかりと把握し、活動していただきたいと考えています。</p>
土方委員	<p>学校運営協議会が立ち上がったことで、開かれた学校づくりがはじまったことが、地域にも伝わってきています。そこで、地域の役割としては、教育長がご意見された学校の応援サポーターという立場で活動することが、一番うまくいくのではないかと考えています。これまでは、地域が学校に少し遠慮してしまうことがありましたが、学校から具体的な要望が来るようになったことで地域がとても動きやすくなったと思います。学校運営協議会において、地域コーディネーターやコミュニティ、学校が今後の方向性を協議することで、スムーズに進んでいくのではないかと考えています。</p>

松岡委員	<p>私が見ている子どもたちは、今やっていることを相手が変わっても同じようにして良いという認識を持つことが苦手で、社会性が非常に伸びにくい子どもが多いです。学校の中に地域の方が入ってくことで、先生や保護者以外の方と接する機会が増え、子どもたちの経験となり、社会性を伸ばす上で非常に役立つのではないかと思います。</p>
福田委員	<p>土方委員と同意見で、はじめの学校運営協議会で学校の方向性を地域にきちんと示し、同じ方向性を持って歩んでいく必要があると思います。</p>
松永市長	<p>これまでいただいた教育委員の意見を踏まえ、会議等いろいろな機会において、地域の役割は学校が求めることをサポートすることであることを、発信していただきたいと思います。</p> <p>また、学校が地域と協働して何かに取り組むとなると、時間と労力が必要と思いますが、学校と地域が率直に意見交換をすることで、うまく調整していけるのではないかと考えています。</p>
徳永委員	<p>地域学校協働活動は、コミュニティが主体となって取り組むことであると認識していますが、コミュニティを支えている自治会や婦人会、子ども会等の団体がほとんどの地区で衰退しているとお聞きしています。こうした状況の中、新たに地域学校協働活動に注力するとなると、学校だけではなく、コミュニティも非常に大変になると危惧されますが、そのあたりの現状について教えてください。</p>
田中課長	<p>徳永委員のご指摘のとおり、コミュニティを支える社会教育団体が衰退している状況が見てとれるところであります。市としては、既存の団体だけではなく、地域学校協働活動を通じて、地域に関わってくれる方を増やすことが、コミュニティの活性化につながると考えています。</p> <p>令和4年度につきましては、コミュニティで生涯学習に取り組まれている方の活躍の場として地域学校協働活動を推奨するほか、本課職員がコミュニティに出向き、お困りごとの相談に応じるなどの支援をしてみたいと考えています。</p>
徳永委員	<p>コミュニティの主体となっている方の固定化や高齢化、次世代への継承など様々な課題があると思いますが、今後の見通しについて教えてください。</p>
田中課長	<p>コミュニティ活動の主体となっている方の高齢化や、新しい人材の参画がなかなか進まないといった課題はあると思いますが、地域で子どもたちの成長を支える地域学校協働活動の理念については、地域住民の方にご理解いただけるものと思っています。まずは、こうした理念を普及啓発することで、今までコミュニティに関わりのなかった方を巻き込み、ゆくゆくはコミュニティ活動に参画いただける動機付けにしたいと考えています。</p>

徳永委員	<p>地域学校協働活動の推進に向けた地域への広報活動について、どのように取り組んでいますか。</p>
田中課長	<p>これまで地域への広報活動が十分でなかった面がありましたので、新年度に向けて、地域学校協働活動が今後の地域活性化を図る上で必要な活動の一つであることをコミュニティに積極的に働きかけ、地域全体で協働活動を応援していただけるよう意識付けをしていきたいと考えています。</p>
松永市長	<p>P T A活動等に携わってきた経験をもとにお話しますと、地域の方が学校や子どもと関わる時は非常にいきいきとしていたように思います。学校や子どもと関わることは、市民の皆さんの活力につながるとも考えていますので、引き続きご協力をお願いします。</p> <p>その他、委員の皆様や事務局より何かご意見等ございますか。</p>
窪田課長	<p>議題（２）「まち全体で子どもを育てる環境づくりへの取組について」の各課の説明において、取組の周知活動についてご報告しました。その周知活動の参考となる情報発信について、関係各課も含めお知らせさせていただきます。</p> <p>今年度、秘書政策課において、総合計画等の改定にあたって市民アンケートを実施しました。そのアンケートで、「どのような方法で市政に関する情報を得ているか」の質問をしたところ、広報「まるがめ」から情報を取得している割合が85.4%と一番高く、ホームページは16.8%と一定の割合にとどまる結果となりました。</p> <p>また、年代別に見ていきますと、60歳以上の高い年代では、コミュニティだよりや自治会回覧から、10～20代の若い年代ではSNSが主要な情報取得媒体となっている結果が出てきています。</p> <p>本日協議した市長公約に係る内容については、今後市民の皆さんに十分にPRしていかなければならない情報でありますことから、先ほどお知らせしたアンケート結果を踏まえ、広報紙を中心とした様々な媒体を活用し、多様な世代に向けて積極的に情報発信していただきますよう、よろしく申し上げます。</p>
松永市長	<p>それでは、本日の会議はこれで終了したいと思います。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>